

令和6年度 一条中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

豊かな心と健やかな体を持ち、自ら考え行動するなど、意欲を持って主体的・創造的に生きることができ、日本はもとより国際社会に貢献できる人間を育成する。

(2) 具体的目標（具体的な児童生徒像など）

・自ら学び考える生徒（知） ・認め合い協力する生徒（徳） ・明るくたくましい生徒（体）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「あたたかい学校・活力のある学校・地域と共に歩む学校」

生徒一人ひとりを目指す生徒像に近づけるためには、地域学校園の小中学校、家庭、地域が連携しながら、それぞれの力を発揮していくことが重要である。本校がその核としての役割を自覚し、関わる人々が誇りに思う学校となれるよう、目指す学校像（3つの柱）を掲げる。

- ・明るいあいさつにあふれ、互いに認め、励まし、称え合える、「あたたかい学校」
- ・地域社会や将来を見据え、子どもや教職員のよさが十分に活かされる、「活気のある学校」
- ・生徒や保護者、教職員が誇りに思い、地域に愛される、「地域と共に歩む学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) あたたかい学校

- ・心の教育、望ましい人間関係づくりを図る
- ・特別支援教育の視点を十分に生かす
- ・花と緑を大切にしたい潤いのある環境を整備する
- ・教職員の団結と健康管理に努める

(2) 活力のある学校

- ・主体的に学習に取り組む態度を育成する
- ・体力・気力の向上と健康教育を推進する
- ・学びやすい、生活しやすい環境を整備する
- ・職員が働き甲斐のある職場づくりに努める

(3) 地域と共に歩む学校

- ・地域をフィールドにした学習活動を進める
- ・地域に根差した ESD を推進する
- ・地域の人材、資源を活用した教育を推進する
- ・学校支援団体との連携強化に努める

【一条地域学校園教育ビジョン】

基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

Society5.0 の到来を見据え、ユネスコスクールとしての自覚と ESD（防災・平和・福祉等）の推進により、奉仕の精神と協力する態度、主体的に行動する力を育成できるよう、教育課程と指導体制を工夫する。

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び学習指導要領の関係指令、および県教育行政基本方針、市教育委員会管理運営規則、市教育スタンダードの示すところに従って編成する。
- (2) 地域や学校の実態を踏まえ、生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮しながら、人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。
- (3) 市の小中一貫教育、GIGA スクール、宇都宮学の趣旨を生かし、学校教育全般にわたるカリキュラムマネジメントを行い、適切な運用が図れるよう配慮して編成する。

5 今年度の重点目標(短期的視点)※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営 ～学校と地域が連携した生徒のための学習, 体験活動の推進～
- ・防災・平和・福祉を主なテーマに, 国際社会, 地域社会に目を向けたESDを推進する。
 - ・教職員が一丸となって学業指導にあたり, 業務の効率化と働き方改革を進める。
 - 休日の部活動指導の地域移行と新たなスポーツ・文化活動の推進策について検討を進める。
- (2) 学習指導 ～自ら取り組み, 「わかった」「できた」を実感できる授業づくりの推進～
- ・生徒が主体的に学習に取り組むために学習評価を工夫・改善する。
 - 9か年のカリキュラムマネジメントとその評価の展開により, 学力の向上を図る。
 - ・習熟度学習・TT, ICT機器を生かし, 主体的, 対話的で深い学びのための授業改善を図る。
 - ・読書活動, 新聞活用(NIE)等を充実し, 広い視野と思考力・判断力・表現力を育成する。
- (3) 児童生徒指導 ～共に成長できる集団づくりと自己指導能力の育成～
- ・自ら考え, 判断し, 責任を持って実行できる自己指導能力の育成・向上を図る。
 - 特別支援教育の視点を活かし, 自己肯定感, 自己有用感を育む教育相談に努める。
 - ・共に課題に立ち向かい, 互いに認め, 励まし, 称え合うことで, 自他共に成長できる集団づくりを推進する。
 - ・困難を克服し失敗から立ち上がる力(レジリエンス)の育成に努める。
- (4) 健康(体力・保健・食・安全) ～強い体, 折れない心, 健康的な生活習慣
- 基礎体力の向上と持久力を養うための活動を工夫改善する。
 - ・カリキュラムマネジメントにより, 健康, 食育, 安全に関する指導の充実を図る。
 - ・感染症対策や防災教育を通して, 危機に対応できる能力の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次字都 宮市学校教育 推進計画 後期計画基 本施策	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
1-(1) 確かな学力 を育む教育 の推進	A1 生徒は, 他者と協力した り, 必要な情報を集めたり して考えるなど, 主体的に 学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・単位時間における授業のねらいの明 確化と, 個に応じた指導をすること で, 見通しをもって主体的に学習に取 り組めるよう工夫する。 ・多様な学び合いの場を設定すること で, じっくり考え, 学びを深められるよ う工夫する。	B	【達成状況】 ・教職員, 生徒の肯定的な回答が目標値 を上回ったが, 保護者の回答がわずかに 下回った。 【次年度の方針】 ・生徒自らが課題の意味を考え, 答えを導 きだしたり文章化したりすることができ るよう支援を工夫し, そのための時間を十分 に取る。
1-(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 生徒は, 思いやりの心をも っている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・主体的・対話的で深い学びにつながる 道徳の授業の実践やそれを生活と結 びつけることで, 生徒の道徳力を向上 させる。	B	【達成状況】 ・生徒, 地域住民の肯定的な回答は目標 値を上回ったが, 教職員, 保護者の回答 がわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・道徳の授業の充実をさらに図り, 生徒の 実践力を向上させるよう工夫する。 ・学校行事などを通して, 他者を認め たり気遣ったりしながら活動に参加でき るよう支援する。

	A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答85%以上	・自分のよさや個性を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画させることで、その達成に向けてあきらめず努力する力を高める。	B 【達成状況】 全ての肯定的回答が目標値を上回り、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・学校行事などを通して、粘り強く目標に向かって取り組めるよう支援する。 ・日々の生活において、達成可能な目標をこまめに設定することによって、達成感や自己肯定感を持たせるよう工夫する。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・保健体育の授業において、段階的な指導の工夫と分かりやすい指導を工夫することで、生徒の興味・関心を高める。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的回答が目標値を上回り、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・保健体育・学級活動等を通して日常的にこれまでの取組を継続していく。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・自分のよさや個性を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画させることで、その達成に向けてあきらめず努力する力を高める。	B 【達成状況】 ・生徒、教職員の肯定的回答が目標値よりわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・宇都宮学や社会体験学習、ボランティア活動等、自分の個性やよさを理解する機会を用意し、将来について考える機会を増やしていく。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答80%以上	・外国語の授業や総合的な学習の時間などでの言語活動の充実を図る指導によってコミュニケーション能力を高める。 ・生徒が英語に慣れ親しむ機会を休み時間等を使用して設定する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は目標値を大きく上回ったが、生徒の回答がわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・様々なテーマを設定することで、英語でのコミュニケーション活動に意欲的に取り組む力を高める。
	A7 児童生徒は、宇都宮のよさを知っている。 【数値指標】 肯定的回答85%以上	・総合的な学習の時間（郷土・宇都宮学）や地域ボランティアに参加することによって宇都宮のよさを多く体験・実感できるように工夫する。	B 【達成状況】 ・生徒、教職員の肯定的回答は目標値を上回ったが、保護者の回答が目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の授業について学校全体で検討・実施し、成果を保護者へ伝える。地域の良さを生かした校外学習等を継続して取り入れていく。
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答85%以上	・読書活動や各教科でのICT機器の積極的な推進で、ICT機器や図書等を学習に活用する力を高める。GIGAスクール構想が具現化できるよう、積極的にパソコンを活用する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は目標値を上回ったが、生徒、保護者の回答は下回った。 【次年度の方針】 ・ICT機器を用いた授業公開を行い、教職員の資質能力の向上を図り、ICT機器を用いた授業をより一層行う。図書館を利用した学習や、図書を用いた学習を各教科で実施する。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答85%以上	・ボランティア活動や、NIE 活動などを通して現在直面している諸問題に関して前向きに考えていく力を育てる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は目標値を上回ったが、教職員の回答はわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・SDGs・ESD についての理解を深めるとともに、ボランティア活動との関連性を可視化できるような取組を設定する。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答95%以上	・職員研修による指導力向上を進めるとともに校内特別支援小委員会を定期的に開催し迅速かつ効果的な支援を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・職員研修で教職員の資質能力を高めるとともに、生徒の情報を迅速に伝達し共有することで、より適切な対応を検討していく。(各機関や小中の連携を含む)
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答95%以上	・いじめゼロ集会や生徒会活動による啓発、道徳での計画的な学習、各種たよりでの周知などを行い、いじめは許されない行為であることをより多く実感できるようにする。	B 【達成状況】 ・生徒、教職員、地域住民の肯定的回答は目標値を上回ったが、保護者の回答が下回った。 【次年度の方針】 ・生徒指導だより、HP等でいじめの未然防止のための取組等について家庭に情報発信していく。また、問題の早期発見、早期対応のために見守り態勢をさらに強化していく。 ・スタンダードダイアリーや生徒との対話の中で日々の様子を把握する。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・教育相談や家庭訪問等を有効に活用しながら、家庭との連携を密にとり、問題があれば早期対応、早期解決をめざす。	B 【達成状況】 ・生徒、教職員、保護者の肯定的回答が目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・生徒情報を全職員で共有し、家庭と連携しながら未然防止の充実を図る。 ・SC や MS を活用し、不登校の改善や個別支援の充実(校内アドバンスルームの活用を含む)に努める。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答95%以上	・教師自ら挨拶や声掛けをし、よりよい人間関係を醸成するとともに、学級経営や教育相談を充実させ、「居がいい」のある学校づくりに努める。	B 【達成状況】 ・教職員、地域住民の肯定的回答は目標値を上回ったが、生徒、保護者の回答が下回った。 【次年度の方針】 ・一人一人に丁寧に声掛けをするとともに、自己有用感・自己肯定感が高まるよう互いに認め合う機会を意図的に設定する。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・前時の復習としての小テストを実施するなど、基礎・基本の定着を図る。 ・学習評価の工夫改善を行い、その内容を公開することで、生徒が目標を持って意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	B 【達成状況】 ・生徒、教職員の肯定的回答は目標値を上回ったが、保護者の回答が下回った。 【次年度の方針】 ・前年度の取組を継続するとともに、学んだことを活用する課題を設定し、積み重ねの大切さを実感できる授業展開を実践する。

4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力して 業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答95%以上	・教育目標及び学校経営の方針を全職 員が意識し、全教育活動でそれが生 かせるように活動しながら業務を進 めるようにする。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が目標値を下回っ た 【次年度の方針】 ・校務分掌のグループ制を活用して、教職 員間の協力・相談体制を強化していく。 ・風通しの良い職員室の雰囲気作りに努 める。
4-(3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業 務の効率化に取り組んで いる。 【数値指標】 肯定的回答85%以上	・従来の業務内容をもう一度見直し、教 員の業務内容の精選を行う。 ・部活動地域指導者を有効活用した部 活動の充実を図る中で、教員の業務 縮減を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が、目標値を下回 った。 【次年度の方針】 ・更なる業務の平準化と効率化、部活動 のあり方に関して改善を図っていく。
5-(1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 肯定的回答85%以上	・挨拶運動や研修会の充実を図り、それ らの活動を発信し周知する。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的回答が目標値を上回り、 目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・活動や発信をさらに充実させ、小・中学 校の足並みをそろえた発信を行っていく。
5-(2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企 業等と連携・協力して、教 育活動や学校運営の充実 を図っている。 【数値指標】 肯定的回答85%以上	・家庭訪問、保護者会、三者懇談、オー プンスクール等を活用し、保護者との 連携を図る。 ・地域推進委員と連携し、地域協議会活 動の有効活用や学校支援の取り組み を推進する。また、PTA との連携を深 め、学校運営の充実を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答はわずかに下回った が、教職員、保護者、地域住民の肯定的 回答は目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・地域推進員と連携し、取組の発信を工夫 して行っていく。PTA との連携をさらに深 め、学校運営の充実を図っていく。
5-(3) 地域と連携・ 協働した学 校づくりの推 進			
6-(1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全 に配慮した環境づくりに 努めている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・避難訓練や防災訓練を行うことで安全 に関する知識を高め、安全点検を 毎月確実にに行い、修繕個 所を早めに修繕する。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的回答が目標値を上回り、 目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・これまでの内容をさらに精選し、継続し ていく。
6-(2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデジ タル機器やネットワークの 点から、授業（授業準備も 含む）を行うための準備 ができています。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・ICT機器の整備を積極的に行い、効 率的に利用できるようにする。 ・校内研修を行い、ソフトの活用促進を 図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が目標値を上回っ た。 【次年度の方針】 ・職員研修を継続して行い、ICT 機器を 用いた授業を行えるように指導力向上を 図る。
小・中学校、 地域学校共 通、本校の 特色・課題 等	○B1 生徒は、時と場に応じた あいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・挨拶運動の推進などで時と場に応じ た言葉遣いや挨拶ができるようにす る。	B 【達成状況】 ・生徒、地域住民の肯定的回答は目標値 を上回ったが、教職員、保護者の肯定的 回答は下回った。 【次年度の方針】 ・いつでも、どこでも、誰に対しても進んで 気持ちのこもった挨拶ができるよう指導を 継続していく。また、教職員が率先垂範し て生徒に接していく。 ・生活委員会を中心に挨拶の習慣化を図 る。

	○B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	・生徒会を中心とした組織により、校則やマナーについて見直しを行うなど、生徒自身が自分事として捉えながら規範意識を高める取組を支援する。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的回答が目標値を上回り、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・教職員が率先垂範の姿勢で行動し、生徒の意識を啓発することで、より一層規範意識を高めていく。 ・生徒会学年委員会、生活委員会等で毎月の生活目標を立て、自律的な生活ができるよう支援していく。
本校の特色・課題等	B3 生徒は、自ら考え行動するなど、意欲をもって主体的に学校生活に取り組んでいる。 【数値目標】 肯定的回答85%以上	・より良い学校生活が遅れるよう、学校行事、生徒会活動、学級活動等に主体的に取り組む。	B 【達成状況】 ・生徒、教職員、地域住民の肯定的回答は目標値を上回ったが、保護者の肯定的回答がわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・生徒会、専門委員会や各行事の実行委員会等で生徒達が主体的に考える機会をさらに増やしていく。またそれらの発信を工夫していく。
	B4 生徒はユネスコスクール、JRC加盟校としての自覚を持ち、ボランティア活動などに積極的に参加している。 【数値目標】 肯定的回答85%以上	・各小学校や地区主催のボランティア活動等に、積極的に参加する。 ・JRC委員会を中心に、依頼された係活動に積極的に参加する。	B 【達成状況】 ・教職員、地域住民の肯定的回答は目標値を上回ったが、生徒、保護者の回答が下回った。 【次年度の方針】 ・ボランティア活動後の振り返り等を行い、生徒の自覚を高めるとともに情報発信する機会をさらに多くしていく。
	B5 教職員は挨拶や対応が丁寧で誠実である。 【数値目標】 肯定的回答95%以上	・誰に対しても気持ちのよい挨拶を教職員自ら率先して行い、誠実に接するよう努める。	B 【達成状況】 ・保護者、地域住民の肯定的回答は目標値を上回ったが、生徒、教職員の肯定的回答がわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・今後も教職員一人一人が意識して業務に当たるようにしていく。
	B6 学校は「強い体、折れない心、健康的な生活習慣」の育成に取り組んでいる。 【数値目標】 肯定的回答90%以上	・朝のランニングや縄跳び検定等、生徒の体力向上を目指した活動の工夫をする。 ・保健だよりや生活習慣チェックシートで、生徒に健康的な生活習慣を意識付ける。	B 【達成状況】 ・生徒、教職員、地域住民の肯定的回答は目標値を上回ったが、保護者の肯定的回答はわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・今後も体力やレジリエンス（回復力）の向上につながる活動を小学校とも連携しながら工夫して設ける。 ・たよりなどを通し、保護者に学校での取組を知らせる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・A1～9の生徒に係る項目で目標に達していない項目がいくつかあった。取組を継続しながらさらに工夫していく必要がある。
- ・A6の項目は、昨年度より肯定的回答が上回ったが、目標値には達しなかった。授業や日常生活の中での工夫をさらに今後考えていく必要がある。
- ・A11は、生徒や保護者の肯定的回答が目標値を下回った。授業でのデジタル機器の活用をさらに工夫していく必要がある。
- ・A16は、昨年度より肯定的回答が下回った。業務の効率化にさらに取り組んでいきたい。
- A17は、全体で目標値を上回った。生徒たちが行っている様々な活動の発信を工夫していく必要がある。
- ・今年度新たに追加した項目 B3 が目標値を大きく上回った。生徒自身も主体的な活動を意識して行っていると考えられる。今後も生徒達が学校生活の中で自ら考え行動する場面を多くしていきたい。
- ・B4は、生徒、保護者の肯定的回答が低かった。活動をしている生徒が多くいることをもっと発信していく必要がある。
- ・今年度のアンケート結果は「とても思う」の回答が多くなったが、「思わない」の回答も増えており、両極の回答が多くなった。

7 学校関係者評価

- ・A11については、保護者が不安にならないよう慎重に方策を考えていってほしい。
- ・A18は、地域未来会議等、よくやっていると思う。年間の活動をもっと発信していくとよいと思う。
- ・A16については、なかなか教職員の仕事が減っていないからだと思う。業務の効率化を図るために頑張ってもらいたい。
- ・目標値の設定を見直すことも必要かと思う。
- ・数値にこだわらず、次年度に向けてどう工夫していくかを考えていってほしい。
- ・記述を丁寧に記入してもらおうと課題の解決策や工夫がもっと出てくると思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度のアンケートは、項目によって目標値や市の平均を下回ったものが多かった。学校や生徒達の取組・活動をもっと工夫して発信し、それぞれの活動を実感できる機会を設ける必要がある。次年度はこれらのことを意識して取り組んでいきたい。そして、生徒、保護者、地域に信頼される学校になるよう努力していきたい。
- 地域学校園の各小学校との連携を図りながら、小中一貫教育を進めている。今年度もあいさつ運動や小学校行事のボランティア活動、教職員・PTA 同士の研修や情報交換を行い、その成果を生徒にフィードバックしたことで、目標値を上回ったと考えられる。今後も生徒が小中一貫教育を実感できるような情報発信をしていきたい。
- ・保護者で目標値に達していない項目が多くなった。今後、学校の取組や活動状況の情報発信をさらに工夫していく必要がある。
- ・地域の方からの評価は大変肯定的で、B6 の項目以外は肯定的回答が100%であった。今後も地域の方から信頼され応援していただける学校づくりを推進していきたい。